

新年全校集会の話

令和6年1月9日

- このたび、能登半島地震でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りします。被災され避難所で生活をされている方が大勢います。一日も早い復興をお祈りします。
- 各県からの災害派遣ボランティア、自衛隊の方々が極寒の中で、救助や支援をしています。ご健康をお祈りします。
- 生徒の中にも石川県に親類がいる子もいるかと思います。
- 能登半島地震に関わる全ての人に、思いを寄せましょう。

- さて、今年の干支は「辰」、あてられた動物はリュウ。竜神中にとって特別な一年になりそうですね。そこで、干支にちなんだ話を2つ用意しました。

- 1つ目：リュウを表す漢字は、「竜」と「龍」です。どっちが語源でしょう。諸説あり、ネットではフェイクもたくさんあり混乱しました。
- そこで、言語学の大学教授に訊ねたら、次のことがわかりました。
 - ・ 漢字のもとである象形文字・甲骨文字から、竜が先にできて龍が後と言われている。
 - ・ 日本では龍を旧漢字、竜を常用漢字としたことで、竜が新しくできた漢字だと思われる。
- 竜神中の竜がもとになっているというのはうれしいですね。でも、名前に龍の漢字を使っている子もいます。優劣という問題ではありませんからね。

- 2つ目：「辰」という漢字のもつ意味から考えてみました。
- 辰は、「ふるえる」ことを意味する言葉です。
- 手を振る、魂や心が震えるといった明るく前向きな意味で使われることが多い言葉です。
- 手を振りながら挨拶するとき、手が竜に見えるかも知れませんね。
- 魂や心がふるえるにちなんで、もの覚えがよくなる話を一つしましょう。記憶力が秀でた人は、何かを覚えるときに感情と合わせて覚えているそうです。例えば、数学の問題の答えが○か×かを気にするよりも、友達の解き方を聞いたり問題集の解説を見たりして「そういう解き方があったのか！」と感動すると記憶に残り、頭がよくなるそうです。
- 魂、心、体が震えるようなリアルな感動体験こそが、この辰年にふさわしい学校での体験、君たちの心と頭を成長させる体験なのではないでしょうか。
- 1年生は新入生を迎えるための準備、2年生は自然教室、3年生は受検に卒業と、感動できるかも知れない機会がありますが、まずは今、ここ、目の前の出来事一つ一つでリアルな感動体験につなげてください。毎日が、さらに楽しくなりますよ。

- ところで、そもそもこの地区はどうして「竜神」というのでしょうか。校長室の中にはその謂れを説明した掲示物があるのですが、それを1月中は校長室の外に掲示しておきます。読んでみてください。なぜ竜なのか、神なのか、…そういうわけだったのか！と、感動とともに心に刻まれることでしょう。

- それでは今年もいつもの言葉で締めたいと思います。
- 自律・・貢献。辰年らしく、心ふるえる、ふるわせる時間を重ねて一流人（竜神）になろう。
- 皆さん、今年もよろしくお願いします。